

大型実物資料の展示について（検討状況報告）

事故前の地域の様子や、震災時の被災状況を示す資料としては、「2 災害の始まり」ゾーンにおいて、「津波被災ポスト」等の展示を想定している。（【資料2】 p.1～p.4）

今般、地元自治体等から大型資料の展示について提案を受けており、展示方法等を検討している。

施設内での大型実物資料の展示については、建屋構造の耐久性や工期等の理由により難しいため、屋外展示を検討しているところ。また、期間やテーマを区切った企画展での展示など、大型実物資料の効果的な活用方法について検討していく。

【大型実物資料の例】

1 津波被災した消防自動車（軽自動車）



【被災場所及び所有者】 双葉町

【保管場所】 旧双葉町役場

【大きさ】

長さ 3.55m × 高さ 1.75m × 幅 1.8m

2 双葉町「原子力 明るい未来のエネルギー」看板



【被災場所及び所有者】 双葉町

【保管場所】 旧双葉町役場、県立博物館

【大きさ】 長さ約 15m × 高さ約 5m

※ 解体済。フレームは旧双葉町役場敷地内、文字パネルについては県立博物館で保管している。

※ 常設展示内では、壁面に大型写真を展示。（【参考2】 p.5 参照）

3 津波被災した橋の欄干



【被災場所及び所有者】 双葉町

【保管場所】 旧双葉町役場

【大きさ】 長さ約 10m×高さ約 1m

4 大熊町 標語看板



【被災場所及び所有者】 大熊町

【保管場所】 県仮保管庫 (〇〇)

【大きさ】 長さ 1.2m×高さ 4.8m×幅 0.2m